

ZANDEN Model 120 の導入(2)

ーセットアップと動作確認ー

1. 始めに

ZANDEN のフォノイコライザー Model 120 を導入いたしましたので、セットアップと動作確認を実施しました。

2. ZANDEN Model 120 のセットアップと動作確認の方法

設置場所は、しなの音蔵のプリアンプを撤去して置き換え、接続に関してはケーブル取り直しなどで選択した結果、下記を選択しました。

LP-12→(フォノケーブル)→AACU-1000→Model120(アンバランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバランス/バランス変換ケーブル)→P&G フェーダー(バランス入力端子/バランス出力端子) →BACU-2000→300B シングルアンプ(バランス入力端子)



最終的にこれまでの変更点をまとめると、オーディオ資料室収載の[再生経路と変更点8](#)のようになります。

3. ZANDEN Model 120 のセットアップと動作確認の結果

動作確認は、イコライザーカーブの切り替えと位相の切り替えを行います。

そのために、下記の盤を選定しました。

バッハ：チェンバロ協奏曲 ピノック指揮 English Concert

ARCHIV 28MA 0020 日本 POLYDOL 盤

ファリャ：三角帽子 アンセルメ指揮スイスロマンド

LONDON SLC-1138

愛と自然の歌 倍賞千恵子

キングレコード SKA-104

また、Garrad401 のメンテナンスかたがた、セットアップを手伝ってもらった LINN SHOP が持参された盤も聴いてみました。

Wind on my Mind 鈴木章治&リズムエース

アルファレコード 28R1-13

Jazz Vocal 集 パティ・ページ

Mercury 251P-150

Jazz Vocal Carol Kidd

LINN Record AKH005

セットアップ後、これまで使用してきたフォノイコライザーとどう変わったかの試聴を行います。インピーダンスの設定は、My Sonic Signature Gold に合わせて、Low を選択します。

第4時定数の設定方法についてのマニュアルの説明が分かりにくいところがありましたが、ZANDEN に問い合わせ、先にロータリースイッチでイコライザーカーブを選定してから、ロータリースイッチを押し込んで、High]、Mid、Low をトグルで設定することが分りました。まずは、第4時定数は High に固定し、イコライザーカーブと位相を変えながら、ざっと試聴していきます。

当方が準備した3枚の盤は、次の条件で試聴しました。

チェンバロ協奏曲 RIAA と TELDEC 正相と逆相

三角帽子 RIAA と DECCA 正相と逆相

倍賞千恵子 RIAA と TELDEC 正相と逆相

当方の印象は、上記アンダーラインの条件を採りましたが、LINN SHOP とは一部意見が分かれました。曲に対するイメージや聴くポイント、演奏会の生音の経験などにもよりますし、意見交換では、さらにカートリッジやアンプやスピーカーの特性などの条件ならびにルームアコースティックの状況によって印象は変わるだろうとのことでした。

LINN SHOP が持参された盤は、仮に RIAA の正相で聴いて行きましたが、LINN SHOP によれば、ボーカルや楽器の細かいニュアンスが良く出ているとのことでした。

た。パティ・ページは、カーブを COLUMBIA にしてみましたが、ボーカルが前に出てくるが、バックが少しぼやけるとのことで、さらに盤に合わせて条件選択を行う楽しみが残ります。

最後に、EMI レーベルの下記について RIAA の逆相にして下記の盤を聴いていただきました。

グスタフ・マーラー交響曲 1 番ニ長調

カルロ・マリア・ジュリーニシカゴ交響楽団

EMI EAC-55004

こういった大編成ものでも、ピアノシモの小音量のクオリティからフォルテッシモの盛り上がりまで破綻なく、何度も演奏会の生音を聴いているこの曲の神髄を發揮させてくれるようであり、同席の LINN SHOP の店主も盛んに感心していました。

この後、一人でイコライザーカーブと位相のチェックを下記の盤で行いました。

LONDON のレーベルですので、仮に第 4 時定数を High に固定し、DECCA の逆相のみで再生しましたところ、ブROMシュテットがバンベルク響を率いて来日したときの演奏さながらのスケール感で迫力のある再生が楽しめました。

ブルックナー：交響曲 4 番ホ長調

カール・ベーム指揮ウイーンフィル

LONDON SOL-1003

さらに、第 4 時定数のチェックを下記の盤で行いました。

モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲第 3 番ト長調 K.216

フランコ・グッリ(Vn・指揮) ミラノアンジェリクム管弦楽団

TRIO RECORD PAC2009

TRIO RECORD ですので、仮に RIAA の正相に固定し、第 4 時定数を High、Mid、Low と替えて行きますと、これらで確かに音が変わり、ヴァイオリンやバックの弦楽アンサンブルの艶やかさなど、倍音領域の質は、Mid が好ましく感じられました。今後、じっくり検討してみたい機能です。

全般的な印象としては、イコライザーカーブと位相および第 4 時定数が最適条件からずれていたとしても、ゲインが高く、静寂感があり、見通しがよくて音楽のディテールの表現が遺憾なく發揮されているとの印象です。

4. まとめ

ZANDEN のフォノイコライザー Model 120 のセットアップと動作確認を完了しました。ざっと聴いたところ、本機のポテンシャルの高さを確認でき、今後イコライザーカーブと位相および第 4 時定数を変数として、レーベルに合わせた最適化ができる見通しがたってきました。なお、Garrad401 のメンテナンスの経過は、別途報

告します。

以上